

地力を見える化！

～土の健康状態を科学的に捉える最近の研究から～

プログラム

1. 土壌の生物多様性・活性を一括計量する

～IT技術の活用による複雑系へのアプローチ～

(独)農研機構・中央農業総合研究センター

生産支援システム研究チーム長 横山 和成 氏

2. eDNAを活用した効率的かつ高精度な土壌診断技術

～土壌DNAの解析によって土壌の微生物性を評価する～

(独)農業環境技術研究所農業環境インベントリーセンター長 對馬 誠也 氏

3. 家畜ふん堆肥の適正利用に向けた

堆肥と畑土壌地力窒素の簡易測定

(独)農研機構・中央農業総合研究センター

資源循環・溶脱低減研究チーム長 加藤 直人 氏

4. 土壌の総微生物数と窒素循環活性に基づく農地土壌診断

～立命館大学におけるeDNAの環境診断システムへの応用～

立命館大学生命科学部生物工学科教授(生物機能工学研究室) 久保 幹 氏

■日 時: 2010年9月21日(火) 13:00～17:00

■場 所: 立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命21 310号室

滋賀県草津市野路東1-1-1

※立命館大学びわこ・くさつキャンパスへのアクセス:

http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_bkc_j.html

※立命館大学びわこ・くさつキャンパスマップ:

<http://www.ritsumei.jp/campusmap/pdf/bkc-campusmap2010.pdf>

■参加費: 無料

■主 催: NPO法人近畿アグリハイテク

立命館大学総合理工学研究機構琵琶湖Σ研究センター「明日の農と食を考える研究会」

(社)農林水産先端技術産業振興センター(STAFF)

農林水産省

◆**土壌の生物多様性・活性を一括計量する**

～IT技術の活用による複雑系へのアプローチ～

((独)農研機構・中央農業総合研究センター 横山 和成 氏)

土壌中の微生物が構成する可視化が困難な複雑系の世界を、それらが餌とする物質によりパターン化し、パターン間の距離を計ることで生物多様性の指数とする手法を開発しました。更にこの多様性に、物質分解機能を加味し、土の生物的活力を包括的に数量化することに成功しました。この手法を用いて土作りの成果を農作業のブランド化に活用する方法を提案したいと思います。

◆**eDNAを活用した効率的かつ高精度な土壌診断技術**

～土壌DNAの解析によって土壌の微生物性を評価する～

((独)農業環境技術研究所農業環境インベントリーセンター 對馬 誠也 氏)

eDNA(土壌から培養過程を経ずに得たDNA)を直接解析することにより、新しい土壌微生物評価法を開発しました。農水省のプロジェクトの成果をふまえて、農業現場への利用に向けた方策を考えたいと思います。

◆**家畜ふん堆肥の適正利用に向けた堆肥と畑土壌地力窒素の簡易測定**

((独)農研機構・中央農業総合研究センター 加藤 直人 氏)

窒素肥効の遅速をもたらす窒素の形態に着目して肥効成分の迅速評価法を開発・マニュアル化しました。また、分析結果に基づいて適正な施肥設計を行う堆肥カルテシステムおよび、畑土壌の地力窒素の簡易測定法の開発についても述べたいと思います。

◆**土壌の総微生物数と窒素循環活性に基づく農地土壌診断**

～立命館大学におけるeDNAの環境診断システムへの応用～

(立命館大学生命科学部生物工学科 久保 幹 氏)

農地土壌診断を行うために、農地土壌中の総微生物数、それらに起因するアンモニア態窒素の減少率と亜硝酸態窒素の減少率といった窒素循環活性の3つをパラメータにしてレーダーチャートを作成し、土壌診断を行う手法を開発しました。同様に、リン酸、カリウムの循環活性に基づく農地土壌診断手法を開発しました。有機栽培への利用など今後の展望についても触れたいと思います。

問い合わせ・申込先

NPO法人近畿アグリハイテク

〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15 (財)生産開発科学研究所内
(TEL/FAX)075-711-1248 e-mail:office@kinkiagri.or.jp

申込み

参加をご希望される方は、9月15日(水)までに
お名前・ご連絡先等、必要事項をファックスまたはメールでお送りください。

ふりがな お名前	ご連絡先 (TEL:FAX)	所属(団体名)又は 住所(市町村名まで結構です)	備考

※お申し込みに係る個人情報につきましては、本シンポジウム以外では使用いたしません。